

岩手研友報

No.224
編集・発行
岩手県公立小中学校
事務職員研究協議会
総務部
令和7年11月28日

第5回岩手県公立小中学校事務全体研修会

令和7年10月3日 会場:アイーナ、マリオス

午前の職層別研修および午後の全体研修会を通して、子どもたちのウェルビーイングの実現を目指すために、事務職員としての役割や資質向上への意識を高めることができた研修となりました。

主事・事務職員

Coaching Office 平野順子氏より、「コミュニケーション研修～分かりやすい伝え方・心をつかむ表現力～」をテーマに講義をいただきました。

講義では、建設的なコミュニケーションを図るために、「目的を明確にする」「相手をよく観察する」「柔軟に対応する」ことの重要性についてお話しいただきました。また、よい人間関係を作るために、「受容」と「共感」の姿勢が大切であることも示されました。さらに、相手に伝わりやすい表現方法として、「事実」と「気持ち」を分けて伝えること、「要望」や「提案」を伝える際には、主語を「私」とした「私メッセージ」を活用することが有効であると説明されました。

「情報」や「思い」を共有する大切さを学ぶために、自己紹介を通して相手の話をよく聴く実践的なワーク等も行われ、円滑な意思疎通を図るための具体的な手法と、相手の立場を理解する姿勢の重要性についてご教授いただきました。

主任主査・主査・主任・主任行政専門員

いわて NPO-NET サポート事務局長 菊池広人氏より「会議を円滑に進めるスキルを学ぶ ー組織ファシリテーションとはー」をテーマにグループワークを交えながらの講義をいただきました。

コミュニケーションとは、互いに意思・感情・思考を伝達し合うことであり、言語を用いる以外にも文字や視覚・聴覚・身振りも使い、「合意形成」（正しいことや正解を求めるのではなく、思いや意図が重なる部分）が目的です。そのための問いは、答えは分からないけれど未来に向かって「なぜ、どうして、どうやって」を設定することが大切であると話されました。

また、合意形成の会議術として、会議の種類の4つ、①決める会議②連絡・共有の会議③コミュニケーションを目的とした会議④アイディアを出す会議のどれにあたるかを見定めることが必要であること、なぜ会議が必要なのかについては、多数派（マジョリティ）と少数派（マイノリティ）、時間軸や場所によっても見え方が異なること、そして多様なスタートラインや角度のちがうアイディアを持つ人たちで話し合うことで、より最適な答えにつなげることができるため、と説明されました。

普段、共同学校事務室や事務研、または学校内において会議を進行することの多い層ですが、改めて会議（合意形成）の本質を学んだ講義でした。

主幹・事務長・専門幹

岩手大学地域防災研究センター教授 福留邦洋氏より「災害時における情報収集と活用・伝達」をテーマに講義をいただきました。学校事務職員は日頃から「来訪者の接遇」「公務災害対応」「備品購入」など多岐にわたる業務を担っているため災害時にも重要な職務を担う職員の一人であるとし、災害時には学校 자체が避難所となることも多いため児童生徒だけではなく地域の避難者への対応や情報の集約と提供を担う役割、職員の服務管理をまとめる役割、教育活動の復旧対応など支援する役割など様々な場面での活躍が期待されていると話されました。

有事に備えた防災対策においては他校や自治体全体の状況を確認する必要もあるため、学校事務の共同化に寄せられる期待も大きいこと、その上で実際の災害時の対応の難しさについて触れ、危機的な状況においての適切な判断をいかに迅速に行う必要があるかを話され、校長・副校長といった決定権のある職員がいなくても各自で適切な判断を取ることができる体制づくりが重要で、そのためには学校の危機管理マニュアルの作成、見直しが急務であることをご教授いただきました。



全体研修会

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部長 藤原文雄氏より、「子どもたちのウェルビーイングの実現と事務職員の役割～創造性と生産性の高い学校事務の世界への転換～」をテーマに講義をいただきました。講義では、主に①学校事務職員の専門性（役立ち方）②学校事務職員の職能レベルと人材開発③共同学校事務室を活用した創造性と生産性の向上の3つの観点からお話しいただきました。

職務規定が「事務をつかさどる」と改正されたことにより、校務運営に積極的に参画する姿勢が求められていること、学校事務職員には5つの職能レベルがあり、それぞれの立場で自分にできることを実践していくことが重要であると説明されました。さらに、事前課題として作成した「学校マネジメントプラン」については、周囲の参加者同士で意見を交わしながら共有しました。また、中央研修配布資料をもとに、全国各地の共同学校事務室の「移転」及び「共同解決」の取組事例が紹介されました。そのほか、実際のアンケート結果を踏まえ、事務研の改革・改善が進められている現状についても説明がありました。これらの内容を通して今後の事務研の在り方について、研究的要素を継承しつつ会員の資質・能力の向上に力を注いでいくべきであるとご教授いただきました。



岩手県公立小中学校事務職員研究協議会

設立 60 周年記念祝賀会 会場:サンセール盛岡

全体研修会終了後、設立 60 周年を記念して祝賀会が開催されました。

たくさんのご来賓の方々、会員の皆様、総勢 70 名が出席し盛大に行われました。

主催者あいさつ

県事務研

会長 清水辺 誠

乾杯

公益財団法人 日本教育公務員

弘済会 岩手支部

支部長 高橋 清之 様

祝辞

岩手県小学校長会

会長 川村 憲弘 様

(当日出席:副会長 村田 浩隆 様)

岩手県中学校長会

会長 照井 英輝 様

岩手県小中学校副校長会

会長 菅原 修一 様

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会 設立60周年記念祝賀会

ご来賓

東北地区事務研会長、秋田県事務研会長

宮城県事務研会長、福島県事務研会長、山形県事務研会長

会場の後方には、10~50 周年記念誌と、これまでの岩事研広報が紹介されました。60 年前に歩みはじめた道のりが、先輩方が築いてきた歴史によって、力強く続いてきたのだということを感じました。



功労者表彰 -おめでとうございます-

全国公立小中学校事務研究会功労者

阿部 貴子 様 (盛岡市立城西中学校 主幹)

東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者

下村 隆 様 (洋野町立種市中学校 主幹)

林 佳奈子 様 (盛岡市立飯岡中学校 事務長)



いわての学び希望基金

全体研修会会場において、『いわての学び希望基金』への募金箱を設置させていただきました。

ご協力をいただいた募金 7,730 円は、岩手県にお送りしました。

岩手県事務研では引き続き、いわての学び希望基金への寄付取組を続けてまいります。

岩手県知事

達増拓也

令和七年十月二十三日
東日本大震災津波の発災から十四年が経過いたしました。岩手県では、皆様からいただいた励ましを糧に、県民とともに力を合わせ、復興に取り組んでまいりますので、今後とも御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ここに、この度の御厚情に対し書中をもちまして御礼のごあいさつを申し上げます。

敬具

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会 様
拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から岩手県政について、格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、この度は、岩手の支援のため心温まる御寄附を賜り、誠にありがとうございました。

御寄附は、御趣旨に沿つて、被災地の子どもたちの就学の支援、教育の充実などに適切に

活用していく所存でございます。

全事研セミナーについて

令和7年度の全事研セミナーは下記の日程で開催されます。

日時:令和8年2月13日(金)

場所:愛知県名古屋市東区 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

※今年度は、愛知県名古屋市での開催となります。御留意のほどよろしくお願ひいたします。



NAGOYA
Culture & Art

日程や講師等、詳細が届き次第、県事務研 HP 等でお知らせします。

編集後記

今号は、第5回岩手県公立小中学校事務全体研修会の特集となりました。設立60周年を迎える節目に、たくさんの学びがあった実りある研修会となりました。今後も、より良い学校事務の発展に向けて共に研鑽を重ねていきましょう。